

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会（メ・ル・ック）
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



- ◆ 目 次 ◆
- 活動報告
 - お知らせ

♪ホームページ折々に更新中!
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡



地域共同型包括教育支援事業 箕面ユネスコ協会 U-Sumile てらこーち 発進!

日本ユネスコ協会連盟の「U-Smile～みんなでつなぐ子ども応援プログラム～」がスタートしました。
この事業は、全ての子どもが夢や希望を持てる社会をめざして、相対的貧困等により国内で困難な状況に置かれ



ている子どもたちを対象に、他団体、行政、企業等と連携し、教育支援、居場所支援等の地域協働型の包括的教育支援を実施することを目的としています。

この応援プログラムでは、基礎学力や学習習慣の獲得はもとより、地域活動に参加できる居場所を提供することで、社会参加や世代を超えた関係づくりを通じ、子どもの自己肯定感の向上をめざします。

こうした事業主旨をうけ、箕面ユネスコ協会は「暮らしづく



りネットワーク北芝」の協力を得て、「てらこーち」として事業指定を受けることになりました。

相対的貧困が見えにくい基礎自治体である箕面市で「暮らしづくりネットワーク北芝」は、経済的な貧困や社会的なつながりに課題を抱えた家庭の子どもたちへの支援はもちろん、全ての子どもたちへのサポートを永年続けられています。



「てらこーち」は、北芝市営住宅集会所を主な活動場所にしながら、らいとびあ、さらには住民家庭や学校の協力を得、週1回程度、放課後時間に実施しています。まず、子どもたちの社会的関係づくりを一つの成果指標とし、地域の高校生、大学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんや地域に住む人たち、教員退職者や研究者などに関わる場をつくることで、世代を超えたができることを目標としています。 (坂口 一美)

♪夏休みに入ってすぐということもあり、子どもたちは夏休みの宿題をやっていました。家で宿題をやると、わからないところが出てきたら、嫌になって止めてしまいそうですが、てらこーちでは、ボランティアの学生さんから教えてもらえるので、嫌にならず楽しんで出来ているようで、すごくいい!と思いました。(花田 純子)

— 3.11 東日本大震災を忘れない! —

今年で12年目 第15回「がんばろう!つばさネットワーク」東北へ

7月14日から18日にかけてが「がんばろう!つばさネットワーク」主催の気仙沼ボランティアにインターンとして参加した。



14日の夕方に大阪府立北摂つばさ高等学校をバスで出発し、15日の朝に気仙沼に到着した。坂口会長から防災無線で避難を呼びかけ続けた遠藤未希さんのお話を聞きながら、バスの中から防災対策庁舎を見学した。私は5,6年前の2回、春日丘高校の生徒としてこのボランティアに参加しているのだが、坂口さんの話を真剣に聞きながら防災対策庁舎を見ている高校生の様子にそのときの気持ちを思い出した。

その後、向洋高校跡地に建設された気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪れた。ガイドの方のお話から高校生の避難の様子を鮮明に想像することができた。高校生までは避難訓練があったが、大学生になってからは経験していない。今日をきっかけに大学での避難、さらには

旅行先などの一時的な場所での避難も考えていきたいと思った。午後からは牡蠣養殖をしているヤマヨ水産にて養殖いかだのおもりをつくる作業を行った。終わるころには高校生も疲れた様子だったが、みなすがすがしい表情でいい笑顔だったことが忘れられない。その夜は民泊先のご夫婦からこれまでに来た人の話を聞いた。まるで本当の子どものように今でもお付き合いが続いているボランティアの方、自分がやっていることは本当に正しいのかと自信を失った大学生、自分だけが良い思いをしているなんておかしいと結局避難所に戻って行ったお友達など、たくさんお話ししてくださった。



16日の朝は陸前高田市にある津波伝承館を訪れた。伝承館を見学した後は、堤防や一本松、震災遺構である陸前高田ユースホステルも見学した。遠くに海水浴場を見ることもできた。なんだ

か震災前と震災後が同時に存在しているような不思議な感じがした。午後からはNPO法人「はまわらす」の協力のもと、田の草むしりをした。水が怖い子どもたちを支援しているということで、田んぼというのはなんだが意外だったが、ちょっとずつ慣れるには最適だなと思った。高校生もきゃーと言いながらとても楽しそうで、大阪に住んでいると田んぼに入る機会はほとんどないので新鮮で面白かった。夕方には気仙沼内湾の見学をした。フラップゲート式陸閘の紹介をされた際の「自然と呼吸しながら生きてきたのに自然を遮断されるとかえって怖い」という言葉を聞いて、海の近くに住んでいる人はもうとっくの昔に津波が来る覚悟ができているんだと感じた。

17日は気仙沼高校との交流会があった。同じ高校生から聞く震災の話は、今までのプログラムで一番いい時間になっていたのではないかなと思う。紙で震災について表現するなど交流会の内容も充実していて面白かった。その後、海の市で昼食と買い物を済ませた後、バスで気仙沼を出発し18日の早朝に北摂つばさ高校に着いた。今回インターンとして参加して何をどうすればいいのかわからないことが多く大変だったが、やっぱり参加してよかったと思う。高校生の新鮮な反応を見て初心に戻った気持ちになった。ここで得たことを箕面ユネスコ協会での活動に活かしていきたい。

(川本 実弥 ユースメンバー)

● 総合学習 協働授業にむけて 各校でプランづくり ●



♪オンラインで参加の先生も

1学期には、これからの協働授業にむけて、先生方とともにプランづくりを行いました。子どもたちの成長への願いをもとに、箕面ユネスコ協会として「国際理解・多文化共生」で協働する内容を相談し、1年間のプランを作成していきます。運動会や宿泊活動などの学校行事、社会や国語とのつながりも共有させて頂いています。これから、子どもたちとどんな出会いがあるか、どんな行動を応援できるか、楽しみです。



♪ペアで、リフレーミングが得意な魔王のお話台本をつくり、演じ合いました

そして7月、さっそく、箕面市立北小学校5年生とともに、『魔王のワザ』というリフレーミングの授業を楽しみました。短所とみえる個性も、見方を変えると長所となる…。北小学校の総合のテーマ「わたしをひろげよう」を応援する内容です。

♪自分の苦手なことも言いかえたらいい部分もあるんだなと思い、ほくも少し自信をもちました。
♪魔王のおかげで、リフレーミングという言葉も知ったし…自分のわるいところでなやんでいる人に「はげませる」ようになりました…。

● 2023年度近畿ユネスコ協議会総会 ●

7月2日、京都元山王小学校で行われた総会及び講演会に参加しました。総会では、事業報告や今年度の計画などが原案どおりに採決され、長浜ユネスコ協会片山勝会長から京都ユネスコ協会相会長に、近畿ユネスコ協議会会長のバトンが引き継がれました。

大阪公立大学の吉田敦彦先生による講演のテーマは、「ユネスコの源流と平和の文化」です。ユネスコ憲章起草時のことや、異質な他者と出会うことで自分の世界を広げていくことの意義など、今の世界の状況を映したお話に、会場全体が引き込まれていきました。改めて、ユネスコがめざしていることを、地域で、草の根で、少しでも形にすることができれば…と思いました。 (大濱 淳子)



国際連合教育科学文化機関憲章（ユネスコ憲章）前文

戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われぬためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の十分で平和な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに研究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

●共に つながり・知る・学ぶ・動く！ ゆるやかなネットワーク！

埼玉県蓮田・白岡地方ユネスコ協会や名古屋ユネスコ協会から

がんばろう！つばさネットワーク東北「3.11を忘れない」ボランティアへ参加！

3月に箕面ユネスコ協会がU-Smile（地域協働型包括教育支援）について学ぶための研修会として、西成区「子どもの里」「箕面市北芝」で研修会を開催しました。その研修会に参加された埼玉県蓮田・白岡地方ユネスコ協会からコースメンバーの江原万菜さんが、今回東北ボランティアへ参加されました。また、これまでユネスコスクールESDパスポートなどの取り組みで繋がり深い名古屋ユネスコ協会の副会長金原祥子さんからのご紹介で 高校教員の大矢彰子さんや、箕面ユネスココース川本実弥さん新メンバーの西尾優那さんも参加しました。

♪♪♪「がんばろう！つばさネットワークの活動に参加して」

今回のツアーで最も印象的だったのは、気仙沼高校との交流ワークショップです。ファシリテーターをしてくれたのは気仙沼高校の生徒さん。彼女は震災の「伝承」に課題



大矢彰子さん

川本実弥さん・江原万菜さん

西尾優那さん

を感じて、このワークショップを考えついたそうです。課題は「A4の白い紙を折って3.11の記憶を表現する」というもの。

紙を折ったあと、その時の気持ちをグループで共有していきます。大阪と気仙沼の高校生たちは、1枚の紙を通して自然に湧き上がってくる言葉を伝え合っていました。震災の話をするということについて、「聞いてもらいたい」という人も、「つらい」という人もいました。伝承の難しさ、大切さを考えさせられました。

次に印象的だったのは、震災後の人々と海との付き合い方です。津波によって海を怖くなった子どもたちと海とのつながりをとりもどす活動をしている「はまわらす」の活動。「海が見える防潮堤」を作り上げた地域の人々のお話。海が人々の生活や心の支えになっているのだと学びました。

実際に訪れなければ知ることのできなかつたことの数々。本当に貴重な3日間でした。民泊でのおもてなしや参加者との交流も、本当にすてきな思い出です。最後になりましたが、本当に多くの方にお世話になりました。ありがとうございました。（名古屋ユネスコ協会 大矢彰子）

♪♪♪万菜がお世話になり、ありがとうございました。

ホストファミリーの温かさ、新たな仲間との出会い、高校生との交流、被災地の現状、知る事…全て貴重な経験となったようです。土産話ノンストップで聞かせてもらいました。また行きたい!!と帰ってきました。私も行きたいです!! (笑) (蓮田・白岡地方ユネスコ協会 江原 泰子)

< お知らせ 今後の予定 >

- 9月13日第2回てらこや 運営委員会
- 10月7日 かやのお宝人權まつり (らいとびあ)
- 10月22日 23日箕面ユネスコ東北スタディツアー
- 10月28日 NP0 フェスタ (市民活動センター)



11月12日
近畿ブロックユネス研究大会
in 飛鳥橿原